

**28年度全国中学生
人権作文コンテスト**
東京都大会
最優秀賞(東京新聞賞)
私を生きる
上田 倫子さん
 (四谷中学校3年)

七・六パーセント。この数字を聞いてあなたは何を想像するだろうか。これは日本の人口の左利きの人やAB型の人の割合にほぼ一致する数字だ。そうだが、しかし、今から話そうとしていることは決してそのようなことではない。実はこの数字は、ある団体が調査した日本のレスピアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなどの性的少数者の割合なのだ。この数字を多いと捉えるか少ないと捉えるかは人それぞれだが、私はとても多いように感じる。私の周りだけでも左利きの人やAB型の人は何人もいる。それを性的少数者の人数に置き換えて考えてみると、性的少数者は認識されていないだけでかなりの数がいそう。このことがわかるだろう。

「最近、メディアでのオネエブームやジェンダーフリーの風潮によって、性的少数者とそうでない人との壁は徐々に低くなりつつあるようだ。しかし、抱き合っただけの同性どうしの友だちを見て、同級生が「おまえらホモかよ」というような発言をしたり、女っぽい話し方やしぐさが目立つ男子を笑ったりするといったことはまだ見られる。このような時、私は非常に残念な気持ちになる。それらの言動には、無意識であれ性的少数者を差別する心が表れているのを感じてしまうからだ。

私は生まれてきたときに女性という性を受けた。しかし、物心ついたときから、常に男、女どちらの性でもいたい、という気持ちを持って育った。フリルやリボンのついた女の子らしい物があまり好きではなく、スカートを履くということも恥ずかしくなかった。小学生の頃は、クラスの男子のように一人称が「俺」だった頃もあった。しかし、成長するにつれて周りの女の子の友だちが綺麗なおしゃれになっていくのを見て、自分が女という性で生まれてきたことへの喜びも感じられるようになった。そして、いつしか自分の心の中に男性のようにも女性のようにもありたいという二つの思いが存在するようになった。そのことを自覚したとき、目の前の霧がぱっと晴れたような気持ちになったことを鮮明に記憶している。それと同時に、「どうしよう」という不安と戸惑いの気持ちが生じた。「自分はおかしい人間なのだろうか」という問いが頭の中をぐるぐる回った。このことを打ち明けてしまったら、両親、祖父母、親戚、親しい友だち、全ての人が私と今までのように接してくれなくなるかもしれない、と一瞬恐ろしくなったのだ。

私がこのような不安と戸惑いの気持ちを抱いたのは、人間は誰でも自分とは違うものを否定したくなる性質を持っていると私自身が考えているからだ。そのような性質は性的少数者だけではなく、有色人種、障がい者、在日外国人などへの差別意識にも通じていると思う。ではなぜ、そのような差別意識が育つてくるのだろうか。私は、原因は家庭環境や幼い頃の経験にあるのではないかと考えた。人間の成長していく過程で幼少期は、保護者や身近な人の影響を受けやすい時期だ。そういった時期に家庭内や学校などでの会話や雰囲気、端々に差別意識が存在すると、その情報を一気に吸収し、自分の考えの一

部となっていくってしまうのではないだろうか。

今の私には、自分の性の認識への恥ずかしさは全くない。それはきつと、私の育ってきた環境や様々なものとの出会いが影響している。思えば私は小さい頃から両親を通じて多様な人との出会いがあった。その中には数人の同性愛者の男性もいて、いつもありのままに堂々と生きるその姿を私はとても美しいと感じた。また、私の大好きな女性ミュージシャンは両性愛者だ。彼女は自身の曲や生き方などを通じて人と違うことは誇りに思っべき個性なのだと教えてくれた。その他にも、本やインターネットから知り得た性的少数者についてのことなど、すべてが私に「身体は女でも心は両性」という性のあり方を「一つの個性」という風に思わせてくれた。

昨年十一月には、渋谷区で同性カップルに同性パートナーシップ証明書を発行するという制度が作られた。これにより同性愛者だけでなく様々な性的少数者に対する社会の理解が深まっていくなさう。しかし、差別意識というものを完全になくすのは実際にはかなり難しいことだと思う。かく言う私も「あなたは今、差別意識を全く持っていないのか」と問われるとすべし「はい」とは答えられない。だがこの多様な世界を生きてゆく中で私たちには、自分の思う「普通」が世間の「常識」なのだという考えを捨て、新たな視点を持つことのできる柔軟な姿勢が求められるのではないだろうか。そして人を性別や見た目で判断せず、その人の持つ「その人らしさ」を一つの「個性」として、受け入れることのできる世の中になつてほしいと思う。どんな個性を持っていても、その人は「かけがえのない人」に変わりはないのだから。

新宿エコ自慢ポイントをご活用ください

新宿エコ自慢ポイントは、買い物の際にマイバッグを使いレジ袋を断る、電気使用量を削減するなど、エコな行動をポイント化する仕組みです。1月〜12月にためたポイントは、12月28日(水)まで景品と交換できます。ポイントの交換はお早めに窓口へおいでください。

●29年1月からの変更点

- ★新たなポイント付与の対象(1回につき1ポイント)
 - ▼廃食油を新宿・西早稲田リサイクル活動センター、環境学習情報センターに持参、▼新宿・西早稲田リサイクル活動センターのおもちゃ修理または洋服リフォーム・包丁研ぎを利用
- ★ポイントの計算を一部変更
 - ▼節電(電気使用量の前年同月比)：変更前/1kwh減で1ポイント、変更後/5kwh減で1ポイント、▼環境学習情報センター等で実施する環境講座の受講：変更前/1講座につき1ポイント、変更後/1講座につき3ポイント
- ポイントの登録・ポイント交換受付場所
 - ▼新宿リサイクル活動センター(高田馬場4-10-2)、▼西早稲田リサイクル活動センター(西早稲田3-19-5)、▼環境学習情報センター(西新宿2-11-4、新宿中央公園内)、▼ごみ減量リサイクル課ごみ減量計画係
- 【問合せ】ごみ減量リサイクル課ごみ減量計画係(本庁舎7階) ☎(5273)3318へ。

区政に関する 苦情をお聞きます

区民の声委員会は、区政に関する苦情を処理する第三者的な機関です。3人の委員が、受け付けた苦情を公正・中立に処理します。プライバシーの保護には特に配慮しています。安心してご相談ください。

【申し立てができる方】個人・法人・その他の団体で、区の関係の業務の執行に関する事項や職員の行為について利害関係のある方

【申し立て方法】「苦情申立書」に必要事項を記入し、区民の声委員会の窓口へ持参または郵送で提出してください。後日、委員との面談日時をお知らせします。

※ほかの苦情処理制度等と競合する事項や一定期間を経過している事項は、申し立てができない場合があります。

【受付日時】平日の午前9時〜12時・午後1時〜5時(祝日等を除く)

※木澤克之委員、渡辺日佐夫委員の退任に伴い、7月1日に加戸茂樹委員、11月1日に山本洋一委員が就任しました。

【問合せ】区民の声委員会(T160・8484 歌舞伎町1-5-1、第1分庁舎2階) ☎5273(3508) ☎(3209)1227へ。



手作りこんにやく教室

【日時】12月20日(火)午前10時〜午後1時

【会場】新宿消費生活センター1分館(高田馬場1-32-10)

【対象】区内在住・在勤の方、20名

【内容】こんにやくに関する健康の話とこんにやく芋からこんにやく作り

【費用】650円(材料費等)

【持ち物】エプロン・三角巾、手ぶき

起業家セミナー

①起業家の方程式

【日時】12月3日(土)・4日(日)、いずれも午後1時〜5時、全2日

【会場】高田馬場創業支援センター(高田馬場1-32-10)

【対象】新規の商品・サービスで

はがき・ファックスの記入例

講座・催し等の申し込み

※宛先は各記事の申し込み先へ。
※費用の記載のないものは、原則無料。

①講座・催し名
②〒・住所
③氏名(ふりがな)
④電話番号

(往復はがきには、返信用にも住所・氏名)

新宿中央公園植物クラブ

- 都心で紅葉を楽しもう
- 【日時】11月22日(火)午前10時〜12時
- 【講師】古田満規子・緑花文化士
- 【持ち物】ルーペ(拡大鏡)ほか
- 【集合場所・申込み】電話で11月21日(月)までに同公園管理事務所(西新宿2-11-1) ☎(3334)24509へ。

Web集客セミナー

【日時】12月6日(火)午後3時〜5時30分

【会場】日本政策金融公庫新宿支店(西新宿1-14-9)

【対象】実店舗での創業を目指す方、創業して間もない方、32名

【内容】Web集客の考え方とトレンド、実践方法・事例紹介ほか(講師は戎井一憲(株)ALPHA代表取締役)

【申込み】11月17日(木)から電話かファックス・電子メール(2面記入例のほか、希望セミナー①②の別)と現在の仕事内容を記入して、高田馬場創業支援センター(高田馬場1-32-10) ☎(3205)3031 ☎(3205)1007・incuc@shinjuku-center.

リサイクル講座

①ペランダでできる生ごみ肥料作り

【日時】12月10日(土)午後1時〜3時

【持ち物】前日または当日の野菜ごみ、筆記用具

②大掃除の工夫

〜アクリルたわし作り

【日時】12月17日(土)午後1時〜3時

【持ち物】アクリル極太毛糸1巻(約30g)、かぎ針、はさみほか

……………(以下共通)……………

【対象】区内在住・在勤の方、①は25名、②は30名

【費用】100円(資料代)

【共催】新宿環境リサイクル活動の会

【会場・申込み】往復はがき(1枚につき1講座)に2面記入例のとおり記入し、11月25日(必着)までに新宿リサイクル活動センター(T169・0075 高田馬場4-10-2) ☎(5330)5374(月曜日休館)へ。応募者多数の場合は抽選。